2011.08.31
日本看護学教育学会

実習指導に携わる病棟看護師の思い
- クリニカルラダーのレベル別にみた語りの分析 -

加藤千佳[1)] 城丸瑞恵[2)] いとうたけひこ[3)]

1）昭和大学大学院保健医療学研究科2）昭和大学保健医療学部看護学科3）和光大学現代人間学部心理教育学科

はじめに

- 看護基礎教育において臨地実習は看護実践能力の向上に重要な意義がある。学生の実習目標達成のために実習指導者の役割は大きく、指導者の指導観・教育観・看護観や、願いが学生の実習に大きく影響している[1)]。

- しかし、実際の実習現場では実習指導者だけではなく、**病棟看護師が学生に指導を行う場面も多くあり、その指導内容によって実習での体験内容や目標達成状況に大きく影響すると考えられる。**そのため、専任の実習指導者からのサポート体制の確立が必要といえる。

[1)]島田悦子,高島尚美　看護学臨地実習における教材化の教員と臨床実習指導者との比較　日本看護学教育学会誌,第17巻第3号,2008

研究目的

- 実習指導に携わる病棟看護師の経験年数や指導経験は多様であるため、それに応じたサポート体制の整備が必要である。

- そこで本研究は、クリニカルラダーレベルⅠからⅢの病棟看護師別に学生指導に対する思いや実習指導状況について、明らかにすることを目的とした。

倫理的配慮

- 昭和大学保健医療学部倫理委員会および実施する施設の医学研究審査委員会の承諾を得て実施した。

- 病棟看護師には、研究目的、方法、匿名性の保持、協力は自由意志であること、同意はインタビュー終了まではいつでも撤回できることを保証し、同意撤回時にはインタビュー記録はすべて匿名化されたまま破棄されること、拒否した場合も不利益を受けないこと、研究成果の公表について同意書を用いて承諾を得た。

用語の定義

- **病棟看護師**

  入院患者が療養生活を送る場で看護師として働く者。看護学実習において**実習指導者の指示のもと学生に指導を行う。**

- **クリニカルラダー**

  看護師の**臨床実践能力段階の評価を行いレベル設定**をすること。

- **クリニカルラダーレベル（レベル）**

  臨床実践能力のレベル構成要素は、看護における「臨床実践」「管理」「教育」「研究」の4つの能力を評価対象として、レベルⅠからⅣの4段階で分類される。

研究方法：対象（1）

- 調査期間：2010年3月から8月

- 対象

①A大学病院で看護学実習を受け入れている2つの病棟の看護師計9名とした。

②対象者の条件は、病棟看護師のレベルⅠ（3名）、レベルⅡ（3名）、レベルⅢ(3名)とした。

表1　Benner看護技能習得レベルとA病院の臨床実践能力の段階

Benner 看護論	技能習得レベル	A病院	クリニカルラダーレベル
初心者 Novice	背景にある状況を理解していない。看護学生の1年生の多くは、初心者の段階からスタートする。新卒ナースは初心者であるという見方をすべきではない。	対象者なし	
新人 Advanced Beginner	受け入れ可能な実践力を持つ人。新人ナースは、ある状況の局面を認識するに十分な経験を背景に持っている。	レベルⅠ	指導のもとに安全に看護ができる。
一人前 Competent	一人前の段階では、効率性の水準が高まる。	レベルⅡ	自らの判断で看護が提供できる。
中堅 Proficient	中堅の実践家は背景について深く理解していることで、その状況を直感的に把握する。	レベルⅢ	問題の解決及び問題を予防するための看護が提供できる。
達人Expert	状況を適切的に把握し、問題に正確に狙いを定める。	レベルⅣ役職者	適切な看護環境を設定・調整できる。困難事例の問題を解決に導くことができる。

対象者

研究方法：対象（2）

③倫理的配慮後に研究者が作成したインタビューガイドに基づいて、半構造化面接を行った。

④面接内容

「実習指導を行って嬉しいと感じた場面/状況」

「実習指導を行って難しいと感じた場面/状況」

「専任実習指導者のサポート体制」

「実習指導者への思い」

研究方法:分析方法(1)

- 半構造化面接聴取内容から質問と回答の逐語録を作成した。
- 逐語録の信頼性を確保するために対象者に内容の確認をした。
- 作成された逐語録をソフトウェアに用いるため、CSV形式によるファイルとしてデータを整えた。
- 本研究では病棟看護師の回答を1つの分析単位とした。

研究方法:分析方法(2)

- テキストマイニングソフトウェア「Text Mining Studio Ver.3.2」により分析する。
- テキストマイニングの手法を用いて単語頻度分析と、対応バブル分析を行った。
- 次に、分析の結果から抽出された特定の単語を抜き出し、どのような場面による語りであったのか、原文(逐語録)を参照した。

結果（1）

- 調査対象者の概要

・対象者の経験年数は、レベルⅠが2年3ヵ月、レベルⅡが3年3ヶ月であり、レベルⅠとレベルⅡの病棟看護師は、新人から現在に至るまで同部署で勤務している看護師であった。

・レベルⅢの病棟看護師は経験年数が9年から11年3カ月であり、他部署で経験を積んだ後に、現在の部署に異動した看護師であった。

結果(2)

- テキストデータの分析

・基本情報

項目	値
病棟看護師の総発話数	1,227(回)
総文数	2,576(文)
平均文長(文字数)	16(字)
述べ単語数	16,044(単語)
使われた単語の種類	2,465(単語)

- 単語頻度分析:レベル別特徴

・レベルⅠとⅡでは「不安」、レベルⅡでは「優しい」、レベルⅡとⅢでは「面白い」という単語が特徴的に抽出され、単語の頻度が異なっていることがわかった。

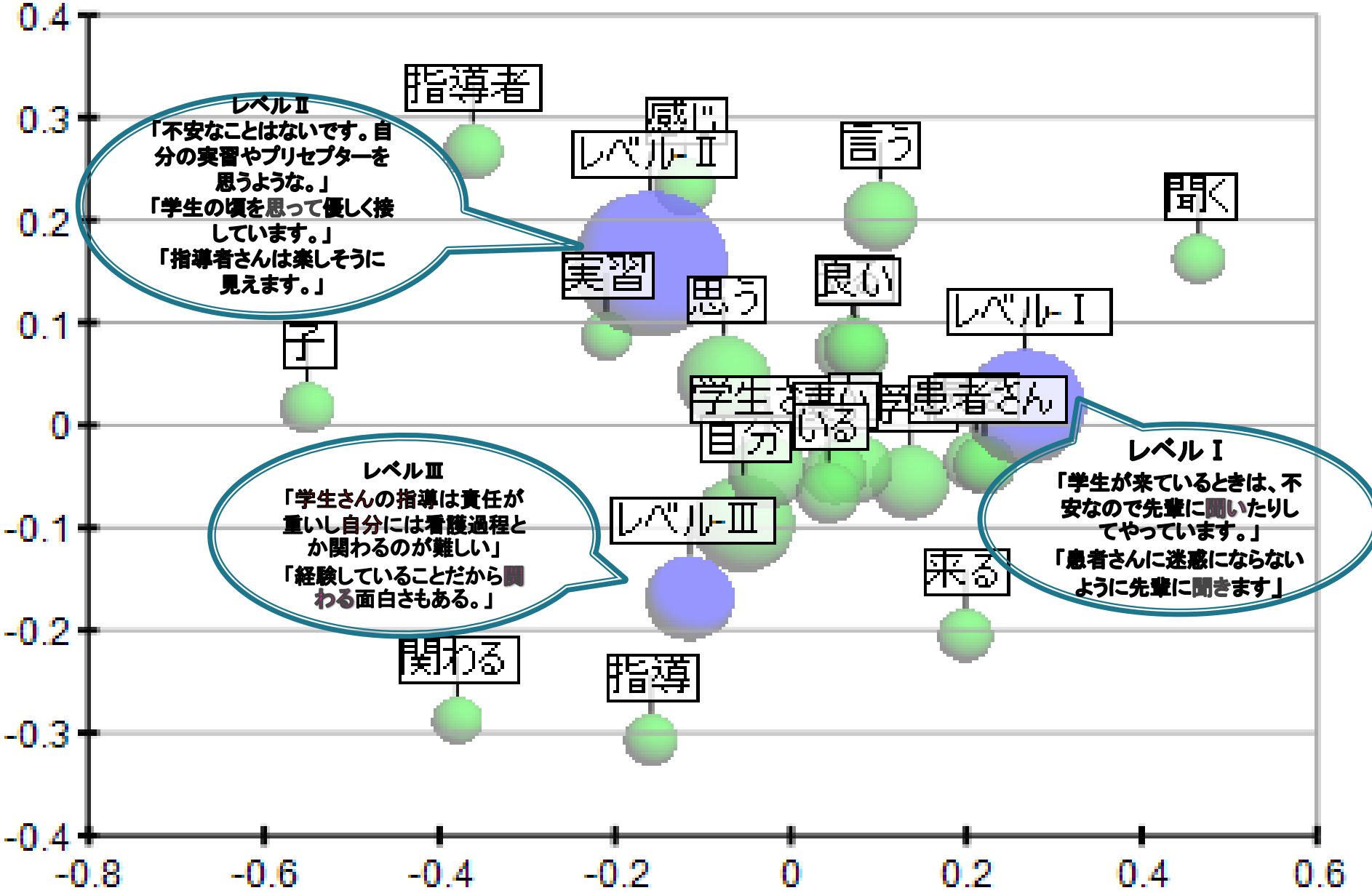

図1　レベル別対応バブル分析結果

考察(1)

- レベルⅠの特徴

・学生が実習に来ることを、不安に感じていた。しかし、学生指導に関与することで患者さんに関わる看護援助について先輩に聞き、看護援助を確認しながら学生指導を体験している様子が伺われ、学生指導体験が看護援助に肯定的に影響する可能性が示唆された。

　このことより、学生と関わることは病棟看護師にとって必要な経験であり、レベルⅠの病棟看護師は先輩や指導者からの十分なサポートのもとで役割体験が必要である時期と考える。

考察(2)

- レベルⅡの特徴

・実習を意識して指導者から指導方法や楽しさを感じとる様子が伺われた。また、学生に関わることに対して不安を感じることなく、学生時代の実習経験やプリセプターの経験を活かして学生の緊張に配慮した優しい関わりが行われていることが伺われた。

　これらのことから、レベルⅡの病棟看護師は、他者へ目を向ける余裕が芽生える時期であることが示唆された。

考察(3)

- レベルⅢの特徴

・後輩指導で培った指導経験から指導を行うことの責任や面白さを語り、実習を指導役割の場として捉えて、学生に関わる様子が推察された。

　このことより、レベルⅢの病棟看護師は、実習指導者の支援者として協力を積極的に依頼することが効果的であると示唆された。

結論

- レベル別に特徴をみると･･･

･レベルⅠは役割体験の必要な時期
･レベルⅡは実習指導に余裕が芽生える時期
･レベルⅢは実習指導の役割を協力できる時期

- 以上のような特徴を持つことが明らかになり、病棟看護師のサポート体制をレベルごとに配慮すべきことが示された。

研究の限界

- 本研究は、病棟看護師の各レベル別に3名ずつ計9名を対象にした結果である。
- 対象数の数が少なく、限られた範囲での病棟看護師であり、レベルを代表しているとはいいがたい。また、個人による語りの特徴により、分析結果に偏りが出てしまった可能性がある。
- 今後は対象者数を増やし、研究を継続することで、各レベル別に病棟看護師の実習指導のサポート体制を整備していくことを課題としていく。

ご清聴ありがとうございました